

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名( 京都市立伏見住吉幼稚園 )

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・安心・安定のできる環境構成と援助の在り方 ・主体的に遊ぶための環境構成と援助の在り方	・幼児の遊ぶ姿の変容・事例検討 ・アンケート項目 「子どもは楽しんで幼稚園に通っていますか」
	幼小接続の視点	・小学校との研究の促進 ・公開保育と研究報告会の実施 ・年間交流計画の作成 ・研究の取組の発信	・幼小接続の研究の検証 ・公開保育・研究会の回数 ・研究会参加者の意見
	心と体・生活習慣	・生活習慣の定着に向けた保護者との連携・啓発 ・保健指導を計画的に実施 ・運動遊びを保育に取り入れる	・アンケート項目 「生活習慣・保健指導のアンケート」 ・保育の計画に取り入れているか
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・教師との信頼関係づくり ・発達に応じた友達との人間関係づくり	・アンケート項目 「教職員は子ども一人一人に あたたかいかわりをしていますか」
園独自の項目	預り保育の充実	・預り保育の参加人数 ・保育者同士の連携 ・指導計画の作成・見直し	・預り保育の参加人数 ・アンケート項目「預かり保育を喜んでいますか」 ・保育記録の作成と活用
	子育て支援の推進	・園庭開放の実施・充実 ・教育相談の取組	・園庭開放の参加人数 ・ほっこり子育て広場の実施回数及び参加人数(在園児)
	情報発信の充実	・ホームページの更新 ・園便りによる発信 ・掲示板の活用	ホームページのアクセス数 ・保護者からの反応



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年8月18日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・幼児の遊ぶ姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果 「楽しんでいる」100%	・幼小接続の研究との関係で事例検討の回数が増え、話し合いを重ねることで子どもが安心・安定し、主体性をもって遊ぶ姿に変容が見られた。	・安心・安定した姿になっているので、今後主体的に夢中になって遊ぶための環境構成や援助の在り方を探っていく。
・公開保育・研究会の計画実施率100% ・研究会参加者の意見は高評価	・幼小接続の研究の積み重ねをしている。お互いの教育の理解の上での授業や保育になりつつある。	・幼小接続の大切さの保護者啓発を入学前の5歳児保護者に行う。 ・接続期の教育課程の検証を行う。
・アンケート項目 「自分の事は自分です」81% ・保健指導は毎月実施できた	・生活習慣の定着についての保護者の評価は厳しい。 ・保健指導は毎月実施でき、保健に対する子どもの意識が変容している。	・個人差もあることなので、日々の子どもの様子を担任より、具体的な姿を通しては発信し、理解を得ていくようにする。
・アンケート項目 「あたたかいかわり」95%	・教師のかかわりをあたたかいと感じているアンケート結果から信頼関係は良好。 ・発達に応じた友達との人間関係づくりは発信不足。	・発達に応じた友達との人間関係づくりについて保護者に懇談会などを利用して啓発していく。
・預り保育の参加人数増加 ・アンケート項目「預かり保育を喜んでいますか」60% ・保育記録の作成及び指導計画への反映	・アンケートの「預かり保育を喜んでいますか」の評価が低いのは3歳児は2学期からの実施になるためである。	・具体的な活動の見直しと共に担任と預かり保育担当教員との連携を図る。
・園庭開放の参加人数多少であるが増加 ・ほっこり子育て広場の参加人数は、ほぼ全員が参加	・園に来てもらうことで、園の様子がよくわかるとの評価をいただく。未就園児の思いに耳を傾けることが大切である。	・園に来てもらうと、園の良さもアピールがしやすい。登録者数が入園児数につながるようにしたい。
・アクセス数増加 ・保護者からの反応は高評価 ・未就園児の保護者もよく見ている。	・保護者や地域の方から子どもの様子がよくわかるとの評価をいただく。未就園児の保護者のアクセス数増加は嬉しいことである。	・入園を考える未就園児のアクセス増加は、園児獲得につながるため、更新回数の増加と内容の充実を目指す。



学校関係者評価	
評価日	平成28年8月23日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・遊びに興味をもつことで、主体的にかかわり学びも多い。今後も大切にしたい。	・興味をもったことを育てる方向で小学校と共にこれからも研究を進めていく。
・幼小の研究が子どもたちのためになってきていることを感じるので、継続して欲しい。	・地域の子どもの成長を目指し小学校から声をかけ、幼稚園も一緒に保育園と交流を深めていく。
・現在の子どもの体力が落ち、危険から自分の身を守ることができない。幼児期からの育ちが大切だと思う。	・繰り返しや継続の取組をしていくことで、身につけていくことと思うので引き続き取り組んでいく。
・今年度の花の苗屋さんとは人のかかわりを育てるという意味で意味があった。優しくかわってくれて嬉しかった。	・人とかかわる力を育てていくためにいろいろな方と交流する機会を学校評議員の方の力をかりて行う。
・保護者の立場としては、預かり保育があると、助かっている。預かってもらえる所があるということで親も安心感がもてる。	・預かり保育をしているという周知がまだ在園児以外に足りないため、ホームページなどの発信の強化。
・未就園児さんが園に来てもらう機会として今年度も児童館のイベントに参加してほしい。	・できるだけたくさん未就園児さんに児童館のイベントに参加してもらえるようにチラシやポスターの掲示を積極的にしていく。
・評議員会で園長が行った視覚的に訴える本園の取組の報告で幼稚園の様子や子どもたちの姿がよくわかった。	・このような視覚的に訴える方法での発信を継続していくようにする。

# 平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名( 京都市立伏見住吉幼稚園 )

## 2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・主体的に夢中になって遊ぶための環境構成と援助の在り方	・幼児の遊ぶ姿の変容・事例検討 ・アンケート項目「子どもは楽しんで幼稚園に通っていますか」
	幼小接続の視点	・小学校との研究の推進 ・研究報告会実施 ・研究の取組の発信	・幼小接続の研究の検証 ・研究報告会参加者数と意見
	心と体・生活習慣	・生活習慣の定着に向けた保護者との連携・啓発 ・運動遊びを保育に取り入れる。	・アンケート項目「生活習慣・保健指導のアンケート」 ・保育の計画に取り入れているか
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・子どもの変容を事例で研修する。 ・人間関係の育ちを見ていく。	・アンケート項目「あたにかいかわりをしていますか」 ・人間関係の育ちを事例で研修
園独自の項目	預り保育の充実	・預り保育の参加人数 ・保育者同士の連携 ・指導計画の作成・見直し	・預り保育の参加人数 ・保育記録の作成と活用
	子育て支援の推進	・園庭開放・教育相談の継続 ・子育て支援から入園する園児数の把握 ・ほっこり子育て広場の継続	・登録者数と入園児数の確認をする。 ・ほっこり子育て広場の実施
	情報発信の充実	・ホームページの更新 ・掲示板の活用 ・それぞれの内容の充実	ホームページのアクセス数 保護者からの反応



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月3日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・子どもの遊ぶ姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「楽しんでいる」97%	・安心・安定をして遊ぶ姿は日ごとに変化し、自分のしたい遊びをじっくりと楽しむ姿が多くなり、保護者にも発信できている。	・引き続き、安心・安定からの主体性の芽生えを意識しながら、園内研修の充実と関連させて取り組んでいきたい。
・アンケート項目「地域との連携を生かした体験が行い、その取組を保護者にも前期より10%も高いと思うの評価をもらった。」	・幼小接続の研究を積み重ね、全国に向けた発表を行い、その取組を保護者にも前期より10%も高いと思うの評価をもらった。	・今年度だけの取組にならないように体制が変わってもまずは継続していき、その上にたった充実をも考えていきたい。
・アンケート項目「自分の事は自分です」89% ・保健指導は毎月実施できた	・ポイントとしては増加しているが、日々の姿を見ていると、やろとしているのに大人が待てなかつたりする姿がある。	・その時々、また年齢にあった声掛けを具体的に保護者に伝えていく必要があることを感じた。
・アンケート項目「あたにかいかわり」100%	・小学校の先生や来園者に気持ちよく挨拶をする子どもが増加。人とかかわりを身につけていく大事な時期を意識していく。	・人間関係づくりの環境構成(幼小交流・異年齢のかかわり等)を意識していきたい。
・預り保育の参加人数増加 ・保育記録の作成及び指導計画への反映	・特に3歳児の預かり保育参加者が増加。担任と担当者の連携が進み、子どもの育ちにつながっている。	・引き続き、教職員間の連携をとり、体調管理や子どもの成長につながるかかわりを考えていきたい。
・園庭開放の参加者は横ばい ・教育相談の登録者・継続者は減少	・親子で楽しんでいた、保護者同士の情報交換の場となっている。 ・子育て支援の意味を踏まえ、工夫が必要。	・1学期から人間関係を築くよう努力する。園みんなと取り組むよう教職員にも啓発する。
・アクセス数増加 ・保護者からの反応は高評価 ・未就園児の保護者もよく見ている。	・ほぼ毎日の更新をしていたが、項目によってのばらつきがあった。・今年度幼小連携の項目を作成したので発信をしていく。	・入園を考える未就園児のアクセス増加は、園児獲得につながると思っていたが、園児獲得には至らなかった。内容の充実を目指す。

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月10日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・幼稚園の今年度の取組がわかった。先生たちの頑張りもよくわかった。	・何かできることがあれば手伝いたい。
・幼小の研究が研究報告会に参加して注目されている研究であることがわかった。継続していってほしい。	・幼小だけでなく、中学や保育園とも交流を進め、つながった取組として発展させていきたい。
・現在の子どもたちは便利になりすぎて、違った意味で窮屈になっていることもある。	・園外保育などで体力づくりやマナーを学ぶ機会をつくってほしい。
・花の苗屋さんのような取組をもっと地域に広げてほしい。	・人とかかわることが大切であるので、このような機会を設定し、取り組んでいきたい。
・長時間の預かり保育の発信が不足なら、ポスターを貼る場所等の工夫や拡大が必要なのではないか。	・ご意見の通り、周知してもらえるような発信の強化。
・子育て支援事業の発信が不足なら、預かり保育と同様にポスターを貼る場所等の工夫や拡大が必要なのではないか。	・預かり保育と同様に周知してもらえるような発信の強化。
・現代の発信方法である。引き続きの発信をしてほしい。	・ホームページの内容の充実を目指す。

## 3 総括・次年度の課題

<p>・27年度・28年度と幼小接続の研究をし、小学校の先生方に幼稚園の遊びの中の学びを見てもらうことができ、幼児教育を理解してもらった。また、接続期の教育の大切さをお互い感じることができた。この研究を継続して取り組んでいきたい。</p> <p>・教員の資質・向上は常に課題であり、今後も若年教員のみではなく、全員で園内研修の充実など取り組んでいきたい。</p> <p>・来年度。預かり保育・子育て支援は大きな課題であると考えてるので、共有理解しながら、充実にむけて具体策を考えていきたい。</p>
---